

在宅療養における経腸栄養管理（半固形化栄養材）に関するアンケート調査

済生会松阪総合病院 内科
清水敦哉

【はじめに】半固形化栄養材は本邦で開発された経腸栄養剤であり、その種類は多く医薬品としても発売されている。使用目的は胃食道逆流予防以外に下痢予防、高血糖予防、褥瘡予防、介護者負担軽減などで使用されている。

【目的】在宅での胃瘻管理において半固形化栄養材がどの程度普及し使用されているか、また、その効果や問題点を明らかにする。

【対象・方法】三重県訪問看護ステーション連絡協議会所属の 113 ステーションへアンケート調査を行った。

【結果】113 施設中 56 施設(50%)から回答が得られた。胃瘻管理を行っている施設は 56 施設中 47 施設であった。半固形化栄養材使用している施設は回答 51 施設中 45 施設(88%)あり、そのうち 40 施設でラコール半固形剤が使用されていた。その使用理由は①介護者の負担軽減、②嘔吐・逆流による肺炎対策、③経済的負担の負担軽減、④栄養剤漏れ、瘻孔周囲炎対策などであった。注入方法はシリンジ使用が 46%、専用アダプタ+加圧バックが 23%、専用アダプタ+巻き具が 15%。専用注入器は 10%であった。水分の投与方法はとろみ有りが 41%、とろみなしが 53%であり、投与タイミングは栄養材注入後が 64%と多かった。使用上の問題点としては①注入が固く手に負担がかかる、②加圧バックやコネクタの購入費が高い、③接続チューブがはずれやすいなど注入やデバイスに関わるが多かった。

【考察】在宅での胃瘻管理において半固形化栄養材が多く使用され、特に経済的なこともあり医薬品の使用頻度が高かった。半固形化により使用理由に対する効果は十分得られていたが、注入操作やそのデバイスについては改善の余地があると思われた。